

## 令和3年度第1回萩市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：令和3年5月18日（木）14：00～

場 所：萩市役所2階 大会議室

### 1. 開会

**【事務局】**ただいまから「令和3年度第1回萩市地域公共交通会議」を開催致します。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、有難うございます。議事に入るまでの進行を担当させていただきます、事務局の萩市商工振興課の山本と申します。よろしくお願い致します。

本日は、令和3年度の第1回目の会議となります。人事異動等で新たに委員となられた方もおられますが、時間の都合上、お手元にお配りしております資料の委員名簿・出席者名簿・配席図でご確認いただければと思います。なお、今回本会議の副会長 九州大学大学院 高野教授は、コロナ感染症に配慮して、リモートでの参加です。あわせて、本日の議題の萩循環まゝーるバスの見直しに係る業務を行っております日本工営株式会社から、議事の説明を受けますが、こちらもリモートでの参加です。よろしくお願い致します。

会議の進行につきましては、15：30を目途に進行してまいりますので、ご協力お願いいたします。

それでは、会議の開催にあたり、会議の成立要件を確認いたします。本日は、委員26名のうち、代理出席も含め21名の委員に出席していただいておりますので、会議の成立要件を満たしていることを報告致します。

本日の会議につきましては、設置要綱第4条第7項に「交通会議は、原則として公開とする」と規定されていることから、公開とさせていただくと共に、会議の開催結果につきましても、基本的に議事録などを市のホームページ等で公表することとしておりますが、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

（会議配布資料確認）

それでは、開会にあたりまして、本会議の会長 萩市商工政策部 山本徹がご挨拶申し上げます。

## 2. 会長あいさつ

【会 長】本会議の会長を務めさせていただきます商工政策部の山本です。開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げたいと思います。平素は萩市の交通行政に皆様の格別なるご支援・ご指導を賜りまして厚く御礼を申し上げます。又、本日は雨が降る状況の中、ご多忙のところご出席を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。今ご承知のように新型コロナウイルス感染症第4波の最中で、毎日新感染者が報告されております。更に近県の広島県・福岡県では、緊急事態宣言が発令されております。山口におきましても相当数の新感染者の報告がされておりますが、萩市におきましても、先日新たな感染者が残念ながら報告があった状況でございます。そうした中で、本日皆様お集りいただきまして、令和3年度の第1回目の会議となります。先ほどご紹介がありましたように、副会長をお願いしております九州大学の高野先生、まゐるバスの見直し業務を委託しています日本工営につきましては、リモートでの参加となりますので、ご了承を願います。

本日は令和3年度の第1回目の会議でございます。まず萩市交通ネットワーク計画を策定しておりますが、それに位置付けております施策につきまして、現状と、令和3年度の取り組みについてご説明をさせていただきます。また、今年の1月に書面でお伺いする形になりました、まゐるバスの見直しに係る調査事業についてですが、平成30年に調査事業を開始しまして、令和2年度に実証運行、令和3年度から本格運行ということで進めておりましたが、コロナ感染症の影響でほぼ1年延びている状況であります。本日はこれまでに様々なご意見を頂戴しておりますが、そうした要望や意見、更に現状の運行ルートの課題を踏まえ、見直しの検討のポイントの整理をいただいております。その見直しの検討のポイントに基づきまして、より皆様にイメージしやすくなるような資料を運行ルートの案として、5つの案をお示しさせていただきました。本日はこうした運行のイメージの案としてご説明いたしますので、検討のポイントについてご理解をいただき、ご意見をいただけたらと考えております。今後、公安委員会、あるいは道路管理者、さらに交通事業者の方にもご協議いただき、次回に予定をしております7月の交通会議におきまして、あらためて実証運行を行うルートについてご提案申し上げ、ご承認を賜りたいと考えております。本日の会議はまゐるバスの調査資料を踏まえまして、まゐるバス運行のルート見直しに向けての事前の協議となるかと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただけたらと考えております。簡単ではございますが開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本日は宜しくお願い致します。

### 3. 議事

(1) 萩市交通ネットワーク計画に定める目標と現状について (資料1、資料2)

【事務局】 資料1、資料2に基づき説明 (省略)

【会 長】 只今の事務局からの説明に申し上げましたが、令和2年度の実績、令和3年度に進めていく事業に関しまして、ご質問やご意見等がございましたら、宜しくお願い致します。

(質問や意見が特になし)

何かありましたら、途中ででも結構ですのでご質問やご意見等をいたけたらと思います。

続きまして、議事2から議事4まで、まっあるバスの運行見直しについてに移ります。

(2) 萩市地域公共交通網形成計画 (素案) について (資料2、資料3、資料4)

【事務局】 資料3、資料4、資料5に基づき説明 (省略)

(3) 萩循環まっあるバス運行見直しスケジュール (案) について (資料6、資料7)

【事務局】 資料6、資料7、に基づき説明 (省略)

(4) 萩循環まっあるバス運行見直しスケジュール (案) について (資料8、資料9)

【事務局】 資料8、資料9、に基づき説明 (省略)

【会 長】: 只今事務局の方から、今回の見直しのポイントを整理し、そのポイントを考えた場合のルート、机上で整理したものです。冒頭申し上げました通り、それぞれの今までの運行ルート、特に西回りに対するものや予めから要望が出ている、交通空白地を解消するというポイントに基づいて、運行ルートの案を示していただきました。これから公安委員会や道路管理者の方々にもご意見をいただきたいと考えています。本日は見直しのポイントをご理解いただき、そのポイントに基づいた案、ということでご質問等をいただけたらと考えています。宜しくお願いします。

【防長交通 齋田社長】：今回の案をつくられた日本工営にお聞きしますが、これは道路管理者、本日ご出席の関係者の方々に事前に相談やアクション等を起こされたのでしょうか。少なくともまあるバスの現運行事業者の当社は何も聞いていません。何故申し上げるかという、今現状の運行計画でも、56分で廻るのは無理があるからです。乗務員の話からも、見直しを行うのだったら、もう少し運行時分を伸ばして欲しいという意見が出ています。現在の運行に足したり引いたりした計画では理解が得られない。例えば東回りが数分遅れてきたら、市役所前で西回りに乗り継ぐお客様の為に出発を遅らせています。つまり、東回りが5分遅れて到着すると、西回りもそれに合わせて5分遅れで出発せざるを得ない状況です。このため、現状は東回りと西回りが接続するよう、運転手同士で声掛けを行っていますが、東回りの遅れが西回りに影響しているのが実状です。また、コロナで観光客が少ないから、今は良いですが、普段は、ご高齢で足腰の弱い方が乗ってこられる場合、乗車には30秒余分にかかります。それも、市役所での降車に限ったことではなく、他の停留所の降車の度に30秒余分にかかります。そのようなことで、乗客が多い時は一周廻っている内に、どんどん遅れが出ますが、それについては諦め、運転手は事故を起こさないように、安全の方を優先しています。それが常態化している現状を踏まえられた上で、このダイヤは作成されているのでしょうか。

資料8のスケジュールについてですが、路線新設の認可が下りるまで、基本的に3ヶ月の標準処理期間があり、困難と考えます。行政が行うことで、処理期間が短縮するかもしれませんが、最初から運輸局のご好意を当てにして、7月に申請して9月には運行を開始するのは、明らかに事業計画として不備と考えます。また、停留所の設置は、逆回りの場合は、殆どが新規になると思われませんが、可能なのでしょうか。日本工営も理解されていると思いますが、個人宅に停留所を設置するのはとても難しいということ。個人宅や店舗の了承をいただき、且つ警察に立ち会っていただき、交差点からの距離や見通し等の確認や、場合によっては道路管理者にお願いすることも出てきます。そういう話を全部抜きにして進めるのは、無責任な計画と考えます。萩市役所の方は、そういった細かい所は理解されず良いプランと思われているかもしれませんが、市民の意見や市役所の意見は、よくわかりますが、この案については、事前資料配布の1週間前に拝見したばかりで、申し訳ないが検討することも難しい。会長から、これはあくまでも素案だという言葉いただいていますので、市役所や市民、ご利用者の意見だと理解はしますが、このスケジュールに合わせて出来るかと言われると、約束はできません。運行事業者として、全面的に努力しますし、運輸局も努力されると

と思いますが、1、2 か月では認可がおりるとは考えられ難い。まず、停留所については、先程お話ししましたが、個人宅の了解を得るのが難しい。市役所が間に入って了解を得られる家ばかりとは限りません。一つの机上のプランとして伺いましたが、運行を請け負うものとしては、このスケジュールに合わせる自信は、全くないということを承知していただきたい。

**【事務局】**：オンラインで聞き取りづらい所がありましたので、今回の提案内容の考え方を申し上げます。今回は案を検討する段階で、まずはお客様や市のご意見をすべて反映して運行拡大をすると、どのようなルートになるかという考えにより、案を詰めて一旦提出させていただきました。このまま運行が出来ると考えているわけではなく、これをベースに、今後交通事業者様に専門的且つ具体的な意見をいただきながら、実証を行っていければと考えています。ダイヤにつきましては、基本的に現行のダイヤより余裕時間を出しまして案に踏襲しましたが、現行のルートでも遅れが出ている状況もありましたので、今回ルートを考える中で、ダイヤについても余裕のある、運転手が焦らず、安全に運行できる、遅れが出ないものを考えたいと思っております。

**【防長交通 斎田社長】**：ダイヤについては、検討できると思いますが、停留所の新設や路線新設の認可を得ることは難しいと考えますし、特に逆回りは認可が難しくれば成り立たないと考えます。

**【事務局】**：逆回りについては、必ずしも現行の停留所の対面に新しく設置ができるとは考えておりません。現地を拝見していますが、停留所が出来る場所と出来ない場所はあると理解しています。資料等の作成の上、可能な場所に設置したいと思っております。そのためにも是非ご協力をいただきたいと考えています。

**【防長交通 斎田社長】**：市民と市役所の気持ちは汲みたいと思っておりますが、これをベースにするには難しい。現行が既に歪んでおり、その上に歪みを乗せるようなものです。色々なルートを見直しても、廻れないルートは出てくると思っております。本日は市民の方もおられますが、この段階で廻ると思われていた地域に、最終的に廻らない案を決定する可能性もあります。このため、事前に関係各所と協議しないと、こういう公の場所に出てきた時に問題となります。

【会長】：色々ご指摘いただきましたが、今回の案は、それぞれの住民の要望なり、現行の課題をクリアするとすれば、一つのこういう見直しの視点に立った場合はこういうルートが考えられる、というものです。それぞれの見直しのポイント、例えば八の字による運行、エリア内の空白地の解消、更に観光利用の促進の為に反射炉を入れるとした場合のルートなどを絵でお示しをさせていただいています。それぞれのポイントで、そのクリアを考えると、このような案の様なルートが考えられるという事で、ご理解をいただきたいと思います。従いまして、これで進めるという採決は当然、取りません。

例えば現行のダイヤを見直して、時間を延ばせば、便数は当然減便されるという事態が起きるという事を、ご理解いただくという考えから提示したものです。具体的には、先ほど斎田社長が言われたように、逆回りをすれば、バス停が必要になるという事はもちろんです。ただ、同じ場所にできないかもしれない、バス停名も変わるかもしれない、更に便数も9便に減るかもしれない、市役所への進入もアトラス側からしか進入できない。これらを加味すると、このような形になる、という案を、今日は提示させていただいているとご理解いただきたく思います。

ダイヤについては、実際交通事業者様としっかり協議をさせていただきたいと考えています。先ほどご指摘があったような、現在のルートは、かなりギリギリの状況で利用する方にご迷惑をおかけしていることかと思えます。そういった所も、今回はしっかり解消をしていきたいと考えています。

運輸局様にも一言お願いしたいのですが、スケジュールにつきましては、まあ一乗バスの見直しは何年も前から言われていまして、今回の見直しがコロナ禍で丸1年遅れている状況です。そして、この度、見直しに向けて乗客アンケートを取ったところですが、平成30年にも全高齢者抽出で2,000人の方にアンケート調査を行っており、まあ一乗バスを利用されていない方のアンケートもしっかりあります。利用しない理由の例として、8の字周回ではないので、行きは10分、帰りは50分だから利用しない、等の意見を多くいただいています。それらを総合的に見て、それを解消する為には、どのような手法があるかと、今回初めて具体的な案を提示させていただいたと、ご理解いただきたく思います。バス停の問題、交通の問題等色々ご意見があるかと思えます。スケジュールにつきましても、この地域公共交通会議でしっかりご議論いただいた上、ご承認をいただき、その承認をもって、運輸局に申請を行いたいと考えています。いずれにしても、住民の方は待っておられます。なるべく早く新しいルートで運行したいという思いで、今回の交通会議で、素案ではありますが具体的に進める一歩としてお話

させていただいているとご理解ください。

**【運輸支局 蔦専門官】**：話の中に標準処理期間がありましたが、こういう形で具体的な絵を拝見し、運輸支局に持ち帰って局内で情報を共有させていただき、処理が円滑に進むように努めて参りたいと思います。

**【川上地域住民代表 横山】**：逆回りという案が出ましたが、先ほどの停留所の件もあります。高齢者の「どちらから行ったら近い」という質問に運転手が1分以上使って回答すると時間がかかります。このため、今まで通りの慣れたものが良いと思います。あと、離島から船で来られる方のまゝのバスの利用状況、利用人数等も踏まえて検討していただきたいです。少数意見もすべて網羅すると大変なことになるかと思えます。バラバラに出してくるよりも1番良い「推奨ルート」を提示して、それを試してみるのが良いのではないのでしょうか。

**【会長】**：ありがとうございます。利用しやすいという事を考えても、あまりにも複雑になるとご高齢の方がわからない、という点も出てくると思われま。いずれにせよ利用者に寄り添った運行形態を作っていきたいと考えています。

**【防長交通 斎田社長】**：色々申し上げましたが、防長交通としては、全力でこのプランが実現できるように努力させていただきます。各方面と議論の上、出来るだけ早い実現に向けて努めます。逆回りについてですが、バス事業者の経験として申し上げますと、右回りが近い人は右回りしか利用せず、逆回りは無いものと考えられるのではないかと思います。また、10回廻っていたものを左右5回ずつにしたら、そこの地区の方は5回に減ったと捉えるのではないかと考えます。

**【会長】**：ありがとうございます。色々いただいたご意見を、しっかり参考にさせていただきながら、今後のルート決定に努めていきたいと思えます。また、現在、実際の運行にあたりましては、ご苦勞をおかけしておりますが、今後ともよろしくお願ひします。逆回りについてはいただいたご意見の通りで、反対回りは必要ないという意見もいただいています。検討はしていますが、ご意見いただきましたように、乗られる個人にとっては一方通行と捉えがちとなります。便数が減ったという見解にならない様に、しっかり検討をしたいと考えています。貴重なご意見ありがとうございました。

【むつみ地域住民代表 大田】：むつみ地域は、萩のバスセンターから約 40 分かかる地域です。先日、まーるバスに乗車してみました。市民病院や川上整形等の病院に行かれる高齢者の方がかなりいらっしゃいます。むつみ地域はデマンドを行っており、予約をして路線バス停留所まで行くことが出来るようになりました。ですが、高俣地区の奥まで行くと往復 20 分程かかってしまいますので、9:10 位のむつみ地域発のバスでないと乗れません。病院等からの帰宅時も 15:30 までのむつみ地域着のバスでなければ帰宅できない状況です。病院の診察時間等の余裕が取れるようにバス運行を考えていただきたいです。今回の議事の資料の判断は難しいと思いました。以前乗った時はいいなと感じましたし、同乗されていた高齢者と話しましたが、まーるバスは必要、という事でした。実際、自分も高齢となり運転を止めた時、最寄りのバス停から市民病院に行くには、どのルート of バスを利用したらいいのかと考えてしまいます。本日の内容は、むつみ総合事務所に報告し、検討しますので、ご連絡がいくかもせれません。その時は宜しくお願い致します。

【会長】：ありがとうございます。デマンドバスも路線バスへ繋ぐという機能をしていくことが大事で、今回むつみのオールデマンド化を進めていくことで、より移動しやすい形となると思います。そこでしっかり話をし、より利用しやすい形を作るにはどうしたらよいか、という話をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

【川上地域住民代表 横山】：今、病院関係は送迎を行っている所が多いかと思ひます。そこも頭に入れておくといいかと思ひます。川上整形で送迎バスの運転手を務めている知り合いがいます。全ての病院に停留所を設置する対象にするのは難しいかと思ひます。病院も努力しています。

【会長】：ありがとうございます。そのように進めていきたいと思ひます。高野先生にもご意見をいただけたらと思ひます。本日お話を伺う機会になられて、ご意見等ございますでしょうか。

【副会長】：web で会議に参加のため、音声がか途中で聞かえない時がありまして、ずれたことを申し上げるかもしれませんがご了承ください。意見を拝聴して、まーるバスが萩市の高齢者をしっかりと支えておられるという事が改めて理解できました。これを見直すにあたっては利用されている方、つまり高齢者の生活



を維持するという点をしっかりと抑えた上で、運行の実態・あり方等は高齢者の意見をいただきながら具体的に詰めていく必要があると考えます。理念の大きな方向性は、皆様共有されていると思いますので、それを具体化する時に様々なご意見がある中で、どう折り合いを付けていくかが、一つの考えどころかと感じました。

**【会長】**：ありがとうございます。時間となりましたので、本日の会議はこれで終わりとさせていただきます。冒頭申し上げました通り、色々ご意見をいただきました様に様々なご要望や課題を整理して、その対処としてこうした手法が考えられるということの一つの案を、また別の手法を取れば、便数等このような状況になるということをお示しさせていただきました。本日色々のご意見をいただきましたので、今後公安委員会、道路管理者、交通事業者様としっかり協議させていただき、出来ましたら7月の会議で実証運行を行うルートについてご提案をさせていただきたいと思っております。今日は改めて具体的な話の中で、資料を提示させていただいたということでご理解をいただきたいと思います。貴重な意見をありがとうございました。

#### 4. 閉会

**【事務局】**：皆様、様々なご意見ありがとうございました。会長が申しました通り、事務局といたしましても日本工営、交通事業者、関係事業者、関係者の方と協議を重ねて、7月の会議で皆様のご参集をお願いしたいと思います。以上をもちまして、令和3年度第1回萩市地域公共交通会議を終了させていただきます。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

以上